

にのみや学園通信

今年度の校内研究授業 その5 (二宮西中学校の取り組み)

※今年度もすべての学校で研究授業が行われました。どの学校でも、各校の教育目標そしてにのみや学園の教育目標である「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指した授業が展開されていました。今回は二宮西中学校の実践を紹介いたします。

【二宮西中学校】

1. 今年度の研究テーマ

「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育」(神奈川県教育委員会委託事業)

2. 主な取り組み内容

4月・5月には、道徳授業の作り方に関する研究会を行いました。その中では、道徳の授業の中での主体的・対話的で深い学びとは何か、柔軟な道徳授業にするための方向性の確認、実際に教材を読んで発問を作って吟味するグループ活動などを行い、教材をどのように読むのかという実践をすることができました。また、昨年度に引き続き研究推進小委員会を発足し、校内研究の推進を図りました。



6月からは、教員が一人1回道徳の授業を行い、授業後に参観したメンバーで振り返る公開授業を行いました。

さらに、9月には、3年3組で長岡教諭による研究授業を行いました。生徒がファシリテーターとなり、意見を繋いでいき、それぞれの考えを比較していく姿が見られました。また、その後は東京学芸大学永田繁雄教授に指導講評をいただき、子どもに対する教師の「伴走者」としての役割について学び、改めて納得解を追究する授業のイメージについて考えることができました。

11月には、1年2組で池戸教諭による研究授業を行いました。二宮町教育力向上アドバイザーの吉新先生にご講演をいただいた授業研究会の中では、教師がどこまで生徒の意見に反応をするのか、机間指導の際の教師の立ち位置とは、などに授業を見て沸き上がった疑問を、参加者で話し合うことができました。生徒たちは、様々な意見がでることに楽しさを感じている姿があり、小学校から話し合いの授業を継続して行ってきた成果を垣間見ることができました。

3. 課題と今後の展望

今年度初めて、道徳を研究の中心におき進めていった結果、見えてきた成果と課題は以下の通りです。成果としては、次の2点があげられます。

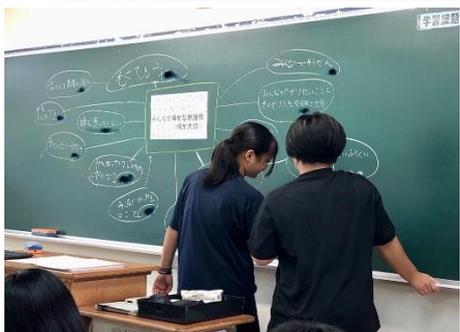
- ① 教員全員が教科をこえて同じ土俵で考えることができた。
- ② 道徳の授業で取り組んでみたことを、自身の教科指導に生かすことができた。

また、課題としては、

- ① 公開授業のしきみが煩雑であった。
- ② 研究授業の講演時間が短かった。
- ③ 学校全体で授業作りに関れるようなしきみがあるとよい。

の3点が挙げられます。

以上を踏まえると、今後の展望としては、来年度も道徳を中心として研究を進めていくこと、また学校全体や学年というグループで授業を作っていく機会を設けていながら、様々な年代の教員の考えの交流を行い、道徳授業についてアップデートしていくことを考え、より良い実践を目指していきたいと思っています。



感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

